事例No.	2059
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	岩手県盛岡市

事例区分	DX

タグ	・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	環境

事例内容・タイトル

多言語対応の資源・ごみ分別アプリによる意識啓発

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

79 多言語対応の資源・ごみ分別アプリによる意識啓発【岩手県盛岡市】

事業の概要

○ 若い世代や外国人を主なターゲットとし、資源とごみの分け方や出し方、収集日などの周知を図るために、スマートフォン用アプリ「資源・ごみ分別アプリ（さんあ～る）」を導入した。

○ このアプリは、自分の住んでいる地区の収集カレンダーを一目で確認することができるほか、収集日と品目を通知する機能がある。さらに、品目を検索すると分別区分がわかる機能、小型家電などの回収ボックスが地図上に表示されるなど、便利な機能が簡単に操作できる。

○ 英語、中国語、ベトナム語の多言語に対応しており、外国人にもわかりやすいものとなっている。



○ 市からのお知らせを周知する媒体としても活用している。

【参考情報】 人口：28.7万人
関連URL：
https://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/gomi_recycle/gomidashikata/1035494.html
（盛岡市公式ホームページ「資源・ごみ分別アプリを配信しています！」）

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー


（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。


（盛岡市）

平成29年６月から導入している地区別収集から見えてきた地域の特徴や、地域での懇談会における意見などにより、借家世帯（若者・単身）や外国人世帯の多い地区においてごみ出しルールが守られていない傾向にあることが課題となっていたことから、紙媒体に加え、スマートフォンアプリを活用することにしました。



事業の近況を教えてください。



令和３年度は、６月からの運用開始で、7,160人の登録がありました。また、テレビや新聞、集積場所への掲載など周知を積極的に行い、多くの方に御利用いただいています。



住民の反応（声）はいかがですか？



「分別習慣がなく、言葉も通じない外国人に目の前でアプリをダウンロードしてもらったら、「理解できる！」と明るい表情になり、それ以降は分別がほぼ守られるようになった。」といった町内会等からの声が寄せられています。

★担当：盛岡市環境部 資源循環推進課★

令和3年度事業費　231千円